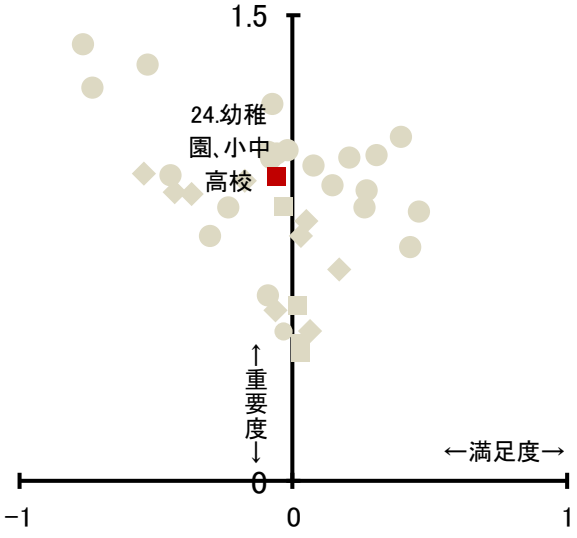
48 幼稚園、学校教育

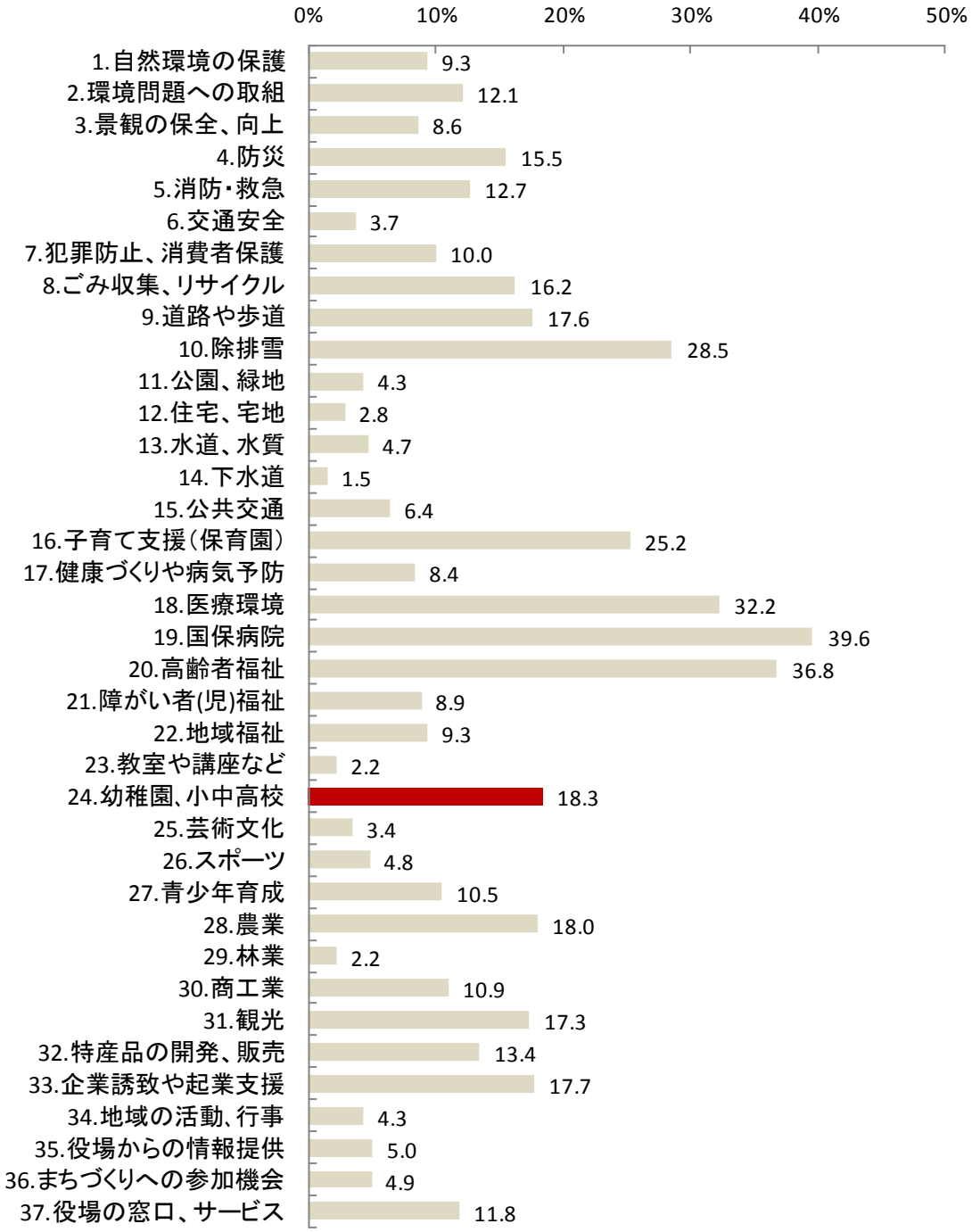
（１）関連グラフなど

【問２】暮らしの満足度・重要度
満足度をヨコ軸、
重要度をタテ軸にした場合の
位置づけです。

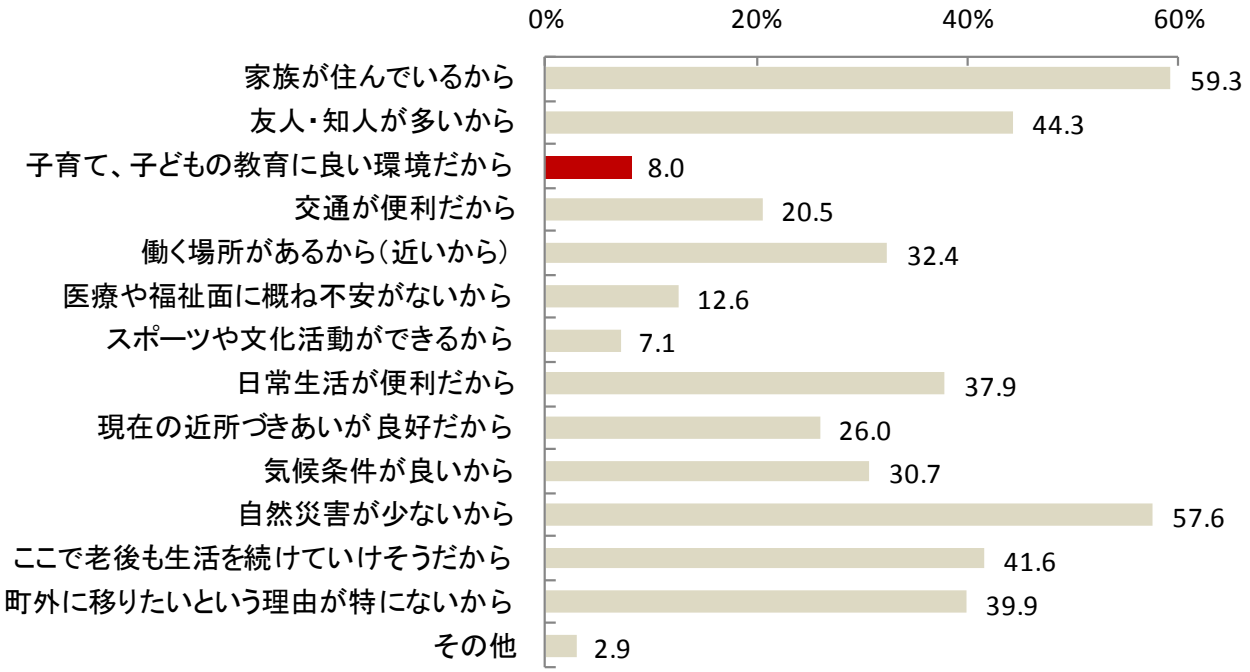
【問３】特に重要なもの
問２と同じ 37 項目の中から、
特に重要と思う項目を
５つ選んでもらった位置づけです。



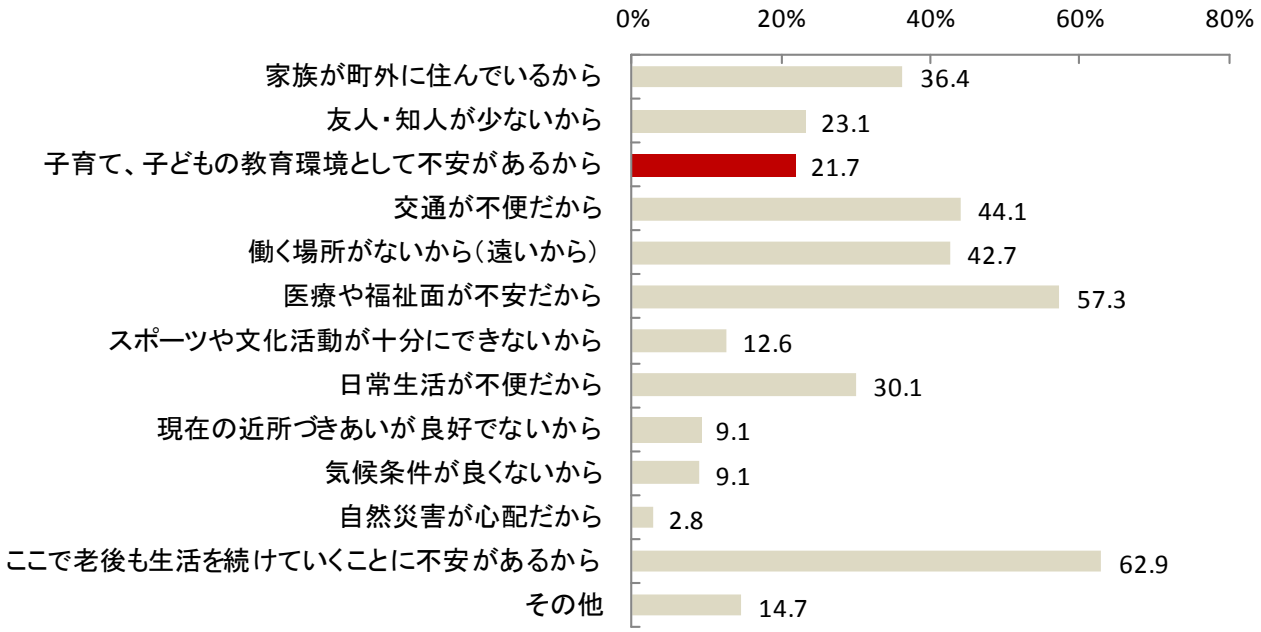
【問３】特に重要と思うもの（5つまで選択/町民813人）



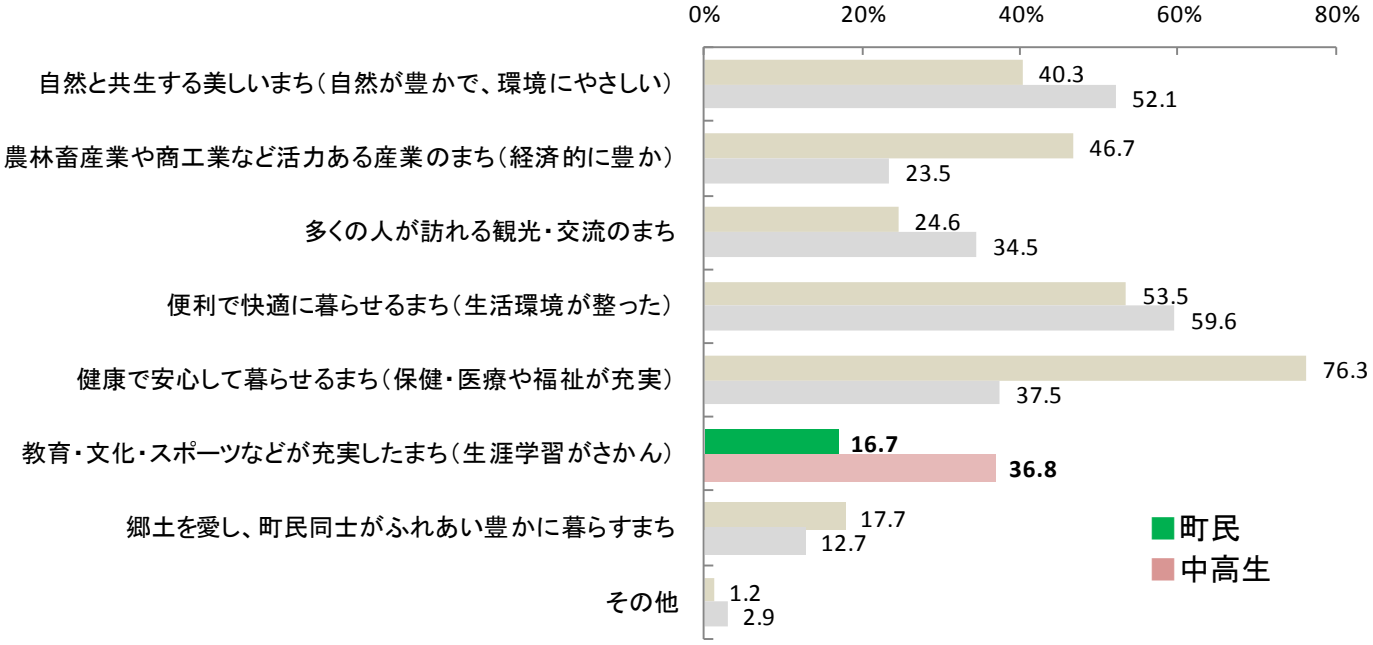
町民 【問4-①】町内に住み続けたい理由（すべて選択/589人）



町民 【問4-②】町外に移りたい理由（すべて選択/143人）



【問6】将来の美幌町に望む姿（3つまで選択/上段：町民、下段：中高生）



（２）現計画の検証

＜幼稚園＞

施策	主な取り組み	進捗状況	問題・課題	今後の見通し、方向性
幼稚園の充実	就園に対する支援	家庭の所得状況に応じて保護者の経済的負担の軽減が図られ幼児教育の推進が概ね見込まれている。	平成 27 年度スタートの子ども・子育て支援新制度への移行がされた場合に事務事業の見直しが必要となる。	子ども・子育て新制度への移行がされた場合に事務事業の見直しを検討。
	教材、研修に対する支援	教職員の研修費及び園児の教材費の一部を補助することにより、幼児教育の振興が見込まれている。	子ども・子育て支援新制度の移行に関連して事務事業の見直しが見込まれる。	子ども・子育て新制度への移行がされた場合に事務事業の見直しを検討。

<小中学校、高等学校>

施策	主な取り組み	進捗状況	問題・課題	今後の見通し、方向性
小中学校の教育環境の充実	学校用備品、教材等の整備充実	教育施設、設備及び備品等については、老朽化による損耗の高いものから計画的な修繕、更新を実施し、教育環境の推進が概ね見込まれている。	校舎全てが老朽化による経年劣化で様々な箇所で不具合が生じていることから総体的な整備を要する。	日頃からの点検、早めの補修、計画的な更新を実施し、良好な教育環境の維持を図る。
	美幌中学校の移転・改修	改修を実施し、平成 23 年度末に旧美幌高校校舎へ移転のため取り組み完了。		
	教育用コンピュータなどＩＴ教育環境の整備充実	年次的な更新計画に基づき整備を着実に整えている。	IT 教育に対応した環境整備が課題となっている。	学校現場のニーズを取り入れた新たなIT教育環境(タブレット PC、電子黒板等)の整備、充実。
	複式校※の解消	最後の複式校である福豊小学校が平成 25 年度末で旭小学校へ統合により閉校のため取り組み完了。		
小中学校の教育内容の充実	地域資源(自然、環境、人）を活用した学校教育の充実	水泳・スキー・スケートの体育科において、各種団体からの外部講師を活用してグループでの個別指導を行っている。 また、「総合的な学習の時間」においては、児童・生徒の興味関心に基づき、課題解決型の授業を進めている。 国際理解教育の推進事業については、語学指導等を行う外国青年招致事業（ＪＥＴプログラム）を活用し、小・中学校に語学指導助手を派遣している。	外部講師派遣団体の人材不足により、学校の希望を満たす講師派遣が困難な状況がある。	より効果的な授業の在り方を探り、内容の充実を図る。
	地域と一体になった学校づくりの推進	保護者や地域住民等からなる評議員を各校に設置し、幅広い意見を学校づくりに生かしている。	－	幅広い意見を聴取するなど地域住民の協力を得て、開かれた学校の実現を図る。
	栄養教諭の配置による食育※の推進	正しい食生活指導や食育に関する授業は行っているが、栄養教諭の配置には至っていない。	配置基準、給食センターの運営などから、職種替えが難しい状況。	栄養士の配置換えを含め、道教委と調整を図る。
	学校給食センターの充実	H25 からボイラー、洗浄機等の機械設備の更新を年次的な計画により行っている。		機械設備の更新が概ね完了後、建物本体（屋根、壁）の改修を計画している。
	特別支援教育※の推進	特別支援学級や通常学級に在籍する発達障害児の学校生活を支援するため、介助員を配置している。	人材確保。	的確な対象児童の把握に努め、適切な介助員の配置を行うとともに、研修等により質の向上を図る。

道立高等学校の間口確保	北海道教育委員会の動向を踏まえた陳情活動及び生徒数確保に向けた中学校訪問	現在、公立高等学校配置計画地域別検討協議会において美幌高等学校の間口削除の動きはない。また、高校と教育委員会が一緒になり生徒確保のための中学校訪問を行っている。	－	少子化に伴い、今後も児童生徒数の増加が見込まれないことから北海道教育委員会の動向を注視するとともに高校と一緒になった生徒確保のための中学校訪問を継続する。

※複式校：二つの学年以上の児童又は生徒を一つに編成した学級を有する学校。
※食育：栄養の偏り、不規則な食事、安全性の問題や食文化の継承など、生産から消費まで一貫した「食」に関する考え方を、家庭、学校、保育所、地域等を中心に育むことを国民が総合的に推進すること。
※特別支援教育：これまでの特殊教育の対象としてきた盲者、聾者、知的障がい者、肢体不自由者、及び病弱者等の児童生徒に加えて、通常の学級に在籍するＬＤ（学習障がい）、ＡＤＨＤ（注意欠陥／多動性障がい）、高機能自閉症等の児童生徒も含め、個々のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行う教育。

（３）意見、提案

☺：小学生　✪：中高生　❀：育児ママ　⚐：自衛隊　⌘：高齢者　●：町民　○：職員

<幼稚園>

- 幼稚園も、美幌町で運営している所があれば良いなと思いました。（女性・30 代）

<小中学校、高等学校>

【美幌町ですきなもの・こと】

☺ 美幌小学校
☺ 美幌小学校のグランド（広いから）

☺ 小学校の周りに木が多くて良い
✪ 中学校の体育館の床を滑らなくしてほしい
✪ 中学校にはウィンタースポーツ部がないのでつくってほしい

- 学校環境が今ひとつだと思います。素敵な大人になる子供達に、環境・教材を惜しみなく与えてほしいと思います。（女性・50 代）
- 教師のマナー研修。（女性・40 代）
- 美幌高校は、マラソン大会を廃止すれば生徒（新入生）が集まると思う。（柏陽はそうなっている。）（男性・40 代）
- 東陽小学校はボロすぎる。冬、窓にビニール貼っている所なんて今どきない！（女性・30 代）
- 給食でアレルギー出た時、フレークとカロリーメイトと牛乳って…？（女性・30 代）
- 会社や学校のいじめをなくしてほしい。（女性・40 代）
- 教育費は大事です！（小学校と中学校）（女性・40 代）
- 美幌町限定のランドセルを作り、配布する。（男性・30 代）
- 小中学校の充実。（60 代）
- 公務員の人が多く、その方は豊かに暮しているように見えますが、民間企業の方は道外よ

り賃金が低く、厳しい生活をしていて格差も感じます。教育の格差だけはないように、子供たちが夢を持てる町にしてほしいです。よろしくお願いします！（女性・40 代）

- 教育は人づくり。人づくりはまちづくり。教育はまちづくりです。…前オホーツク教育局長の言葉“教育のまち”を目指すことで、「美幌で子どもの教育を」と考える方が増え、活力ある地域の創造に結びつくのではないでしょうか！子育て施策については充実している本町ですが、さらに教育の視点で子育て施策を深めるべきと思います。国も幼児教育や教育再生など力を入れつつある今、一歩前を歩く“教育のまち”を目指したい。（男性・40 代）
- 教育を町内でも充分に受けられるように。町外まで高校に通うのは大変。（女性・10～20 代）
- 中学生が美幌高校に進学したくなるよう、スポーツ及び芸術に力を入れてほしい。（男性・50 代）
- 児童数が減ってきているので、小学校を３校から２校にして良いのでは！？（男性・30 代）
- 小中高の学習環境を整備し、特に障がいを持つ子供たちが安心して通え、暮せる町づくりを進める。誰もが地元の高校を卒業できる安心感が必要。（男性・40 代）
- 中学校の部活バスを美高からも出してほしい！ぜひ！（女性・40 代）

○ 子どもの総合力向上（地域力向上）。毎週土曜日授業を受けられるようにしたり、クラスの教員を２人にする等授業の質量を増やす。財政的に難しいと思いますが、単費での教員の雇用が必要となる。現在もスポーツ・文化関係団体で指導力の高い住民が大勢おりますが、指導力の高い教員若しくは外部講師を招聘等することで、スポーツクラブや部活動等をより一層活性化し、子ども達がその次の世代を育成していけるような環境の整備。（私立ではないので難しいとは思いますが）

○ 現在、北海道の教育水準は、かなり低い状況で、たくさんの施策をされている状況と思いますが、例えば、管内１位の教育水準等の仕組みを作る事が出来れば、子育て世帯が、町内に引っ越して来てくれる可能性も生まれるのかなと思います。なお、町内の学校の教育水準の一定程度の平準化も必要と思われます。

○ オープンスクールの開設。不登校の児童に対して、学校や不登校問題相談員を中心に施策が行われています。サテライト学習もありますが、引きこもりの子どもたちを外に出すために、出入り自由の空間を充実し、個々にあった学習をしてゆくことが出来れば、学校との接点にもなり、子どもたちの居場所作りとしても、効果的ではないかと思います。

○ 美幌町の規模で、町内に小学校は３校も必要ありません。東陽か美小を廃校し、空いた施設の有効活用を。

○ 現在、市街区域にある小学校を３校から２校に統廃合し、人件費・施設維持管理費を抑制する。東陽小学校か美幌小学校のどちらかを廃校とし、閉鎖後は役場庁舎として利用する。グラウンドはそのまま残し美幌冬まつりや美幌夏祭り（盆踊り）等のイベント会場として利用すると共に、ソフトボールや少年野球の練習、レクレーション利用に無料開放する。

○ 子どもの増加が見込めないことから、統合し開いた学校を他の施設へ有効活用する。

＜高校＞

- 町内には小学校が３つ、中学校が２つあるが、その後の高校は１つ。より良い教育を求めると、町外に出てしまう。若い人が活躍する場がないのでは。

○ 高校の充実。学力、部活動等、色々な理由により町外への進学が多いように思います。地元の高校で過ごす事は、美幌町への愛着が深まり、永住するきっかけになると考えます。

○ 冬の朝の高校通学専用バスを。冬の時期になると朝のバスを利用する高校生が増え、バスが満員になり一般客・高校生ともに窮屈なため。